

2026年3月21日

主 催 生駒市
生駒市教育委員会
一般財団法人
生駒市スポーツ協会
主 管 一般財団法人
生駒市スポーツ協会
運営受託 生駒市ソフトボール協会

2026年度 第55回市民スポーツ大会(ソフトボール競技・一般の部)大会規定

本規定は、標記の大会に適用する。

【運営】

1. 試合形式及び表彰
男子の部:トーナメント方式とし、3位決定戦も実施、3位までを表彰する。
女子の部:トーナメント方式とし、2位までを表彰する。
2. 抽選は、3月21日(土)一般財団法人生駒市スポーツ協会および生駒市ソフトボール協会による代理抽選とする。抽選結果は3月23日(月)までに生駒市ソフトボール協会のホームページに掲載するので、各チームで確認してください。個別通知は行いません。また、諸連絡事項も抽選結果と同時に掲載しますので、必ず確認しておいてください。
3. 組合せ決定後棄権するチームは、速やかに生駒市ソフトボール協会までその旨を連絡すること。
〔連絡先〕赤松会長(TEL 79-3570)
この場合、勝敗は「不戦敗」とする。また、棄権チームとその対戦チームは次試合の審判及び記録・総務員として各3名を派遣すること。
4. 試合中は勿論、施設内での選手等の言動他、チームの全責任は監督(不在の場合は代理者)が負う。暴言・暴行等スポーツマンとして相応しくない言動があった場合は、チームに対し警告を与える。また甚だしい場合はチームを失格として没収試合とする。
5. 集合時刻は試合開始予定時刻の1時間前とする。なお、当日第1試合のチームは、担当理事・担当審判の指示により、協働してグラウンドの設営並びに試合用具等の搬出を行う。
主たる担当を次のとおりとする。
◆一塁側ベンチチーム:グラウンド外の設営
テントの設営、机・椅子・試合運営文具用品・スコア掲示板・喫煙場所の看板等の搬出及び設置
◆三塁側ベンチチーム:グラウンド内の設営
ラインカー・ベース・石灰・ネット・トンボ等の搬出、ライン引き

6. 最終試合のチームは協働でグラウンドの整備及び設置物の撤去・格納等後片づけを行う。
7. 打順表(ラインアップカード)は、試合開始 30 分前(試合が連続する場合は速やかに)に 4 枚本部席へ提出する。また、打順表には監督(不在の場合は代理者)名を必ず記載しておくこと。
8. ベンチには監督、選手以外入ってはならない。また、試合中は競技に関係する以外ベンチから出てはならない。
9. グラウンド内は勿論、施設内での喫煙は指定された場所以外厳禁する。また、ゴミはチームで持って帰ること。
10. 総合 S.C の A グラウンド(体育館側)付近の通路(道路)及びライト側の駐車場所には駐車しないこと。ボールが車等に当たり損傷しても責任を負わない。なお、駐車スペースの関係で極力乗り合わせて来場する。
11. ファウルボールの回収は、原則として攻撃側が行う。
12. 本部席への立入りは協会役員、審判員、記録・補助員のみとする。
13. 審判および記録・総務委員について
各大会の推進は全チームによる相互運営を基本とし、各試合の審判・副審・記録・総務委員などの要請について積極且つ親交的に協力すること。
 - (1) 決勝戦、三位決定戦以外
球審、塁審とも各チームで行う。この場合、球審は極力審判員の有資格者が行う。
 - ア) 第 1 試合 審判、記録・総務委員は各チーム3名
対象チーム 第 2 試合の両チームが担当
 - イ) 第 2 試合以降 審判、記録・総務委員は 6 名
対象チーム 前試合の負けまたは勝ちチーム
 - (2) 決勝、三位決定戦
審判等は全て協会(審判委員会)で行う。

【注意事項】

- (1) 第 1 試合の審判員等は、試合開始予定時刻の 30 分前に本部席に集合すること。
- (2) 第 1 試合をはじめ定められた審判等を行わなかったチームは、当該大会への出場を認めない。(次の試合がある場合は「不戦敗」とする)
- (3) 二日目、女子の試合の後、男子の試合の第 1 試合の審判等は、第 2 試合の両チームが行うものとする。〔前記「(1)決勝戦、三位決定戦以外の第 1 試合」〕の項を準用
- (4) 負けまたは勝ちチームが行う次試合の審判等は、組合せ表に明示する。
- (5) 協会(審判委員会)が担当する上記「(2)決勝戦、三位決定戦」について、事情によっては関係チームに審判等を依頼する場合がある。また、棄権チームの事情で審判等が実践できないときも前試合のチームに依頼する場合がある。なお、当該事象が発生した場合は、事前に協力要請を行う。
- (6) 球審を行う場合は、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用すること。(捕手用で可)

【ルール】

試合は 2026 年度(公財)日本ソフトボール協会オフィシャルルールに準じて行う。

但し、次の事項を大会の特別ルールとする。

1. 試合は 7 回もしくは所定の試合時間を超えて新しいイニングに入らない。
〔試合時間〕 男子の部 60 分
女子の部 60 分
2. 勝敗は、7 回もしくは所定時間を経過した時点の回が終了時、得点の多いチームを勝者とする。
但し、7 回もしくは所定時間を経過した時点の回を終了しなくても、次の場合は正式試合とする。
 - ① 後攻チームが裏の回の攻撃をしなくても先攻チームより多く得点している。
 - ② 後攻チームが裏の回の攻撃中、先攻チームより多く得点した。(さよならゲーム)7 回もしくは所定時間を経過した時点の終了時、同点の場合は最終守備者による抽選とする。(決勝戦に限りタイブレークにより試合を行う。但し、2 回まで)
3. 日没、荒天、その他突発的な事情により試合が途中で打ち切られた場合、3 回を終了しておれば正式試合とし、その時点での得点で勝敗を決定する。同点の場合は最終守備者による抽選とする。但し、3 回を終了しなくても次の場合は正式試合とする。
 - ① 後攻チームが 3 回裏の攻撃をしなくても先攻チームより多く得点している。
 - ② 後攻チームが 3 回裏の攻撃中、先攻チームより多く得点した。(さよならゲーム)
4. 所定時間が未経過、且つ 3 回までの途中で勝敗が決していない状態で試合が打ち切られた場合は、無効試合(ノーゲーム)とする。
5. サスペンデッドゲーム(一時停止試合)は採用しない。
6. 得点差コールドゲームは、4 回 10 点差、5 回以降 7 点差とする。
7. 準備投球は、1 分以内で初回と投手が交代したときは 5 球、次回からは 3 球の準備投球が可能ですが、試合進行の迅速化を図る観点から「1 分以内」を優先して適用されます。
従って準備が遅れる場合、準備投球が 1 球になることもあります。
8. 外野守備者の危険防止等から外野境界線(白線)を設定する。
次の場合は本塁打とする。
 - ① 打球がノーバウンドで境界線を越えた場合。
 - ② 両足または片足が境界線から出て飛球を捕球した場合。
 - ③ 飛球をフェア地域で捕球しようとしたが、はじいた球がノーバウンドで境界線を出た場合。次の場合は、エンタイトル・ツーベースとする。
打球がワンバウンド又はゴロで境界線を出た場合。
9. 金属製スパイク(針状の金属製スパイクを含む)及びセラミック製スパイクの使用は禁止する。
10. 一塁・三塁のベースコーチはダブルイヤーフラップのヘルメットを着用する。また、捕手のフルフェイスヘルメットの着用は認めない。
11. 負傷による代替プレイヤーの出場は、出血以外の負傷でも認める。
12. 参加申込書に記載のない選手、或は登録した選手名を騙った選手(なりすまし選手)が出場した場合、チームに対し次のペナルティを科す。

- ① 試合前または試合中に発覚した場合・・・その時点で試合を中断し没収試合とする。
- ② 試合終了後に発覚した場合・・・その試合は成立とするが、以降の試合の出場を認めない。
(以降の試合は「不戦敗」とする)

[参考・・・ルールの抜粋]

1. 指名選手(DP)について

- ① 指名選手(DP)は打撃専門のプレイヤーで、どの守備者についてもよいが打順表に DP と記入する。
- ② DP の守備者(FP)は守備専門のプレイヤーで、打順表の 10 番目に記入する。
- ③ DP、FP がスターティングプレイヤーであれば、いったん試合から退いても、いつでも一度に限り「再出場」できる。ただし、自己の元の打順を受け継いだプレイヤーと交代する。
- ④ DP はいつでも FP の守備を兼ねることができる。また、FP はいつでも DP の打撃を兼ねることができる。
- ⑤ DP はいつでも FP 以外のプレイヤーの守備を兼ねることができる。そのとき、DP が守備を兼ねたプレイヤーは打撃のみを継続し、この選手を打撃専門選手(OPO)と呼ぶ。

2. 再出場について

スターティングプレイヤーは、一旦試合から退いても、いつでも一度に限り「再出場」できる。ただし、自己の元の打順を受け継いだプレイヤーと交代する。

3. 打合せについて

- ①守備側の打合せは1回～7回までの間に3度であり、違反すると投手は交代しなければならない。
- ②攻撃側の打合せは1イニング中1度限りであり、違反すると監督は退場となる。

4. 投球について

- ①投手板を踏むときは、両手を離して、軸足を投手板に触れておかなければならない。
(注)両足を投手板に触れておくか、もしくは軸足を投手板に触れながら自由足を(投手板の両端の後方延長内)に置くことができる。
- ②投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち、両足を投手板に触れている状態、もしくは軸足を投手板に触れながら自由足を後方に置いた状態で、2秒以上5秒以内身体を完全に停止しなければならない。
(注)完全停止後、自由足を投手板から後方に引いたり、あらかじめ後方に置いていた自由足をさらに後方に引いた場合は不正投球になる。
- ③投球する手の指にテープを巻いたり、手首や前腕部にリストバンド、腕輪、またはこれに類するものを着用してはならない。

5. ストライク

- ① ストライクゾーンは、打者が自然に構えた時(スイングする前)の「みぞおち」(上限)と「膝の皿の底部」(下限)の間の本塁上の上方空間をいう。
- ② 内・外角は、ホームプレートを上から見た状態で、ホームプレートに球が接すれば(球はホームプレート上にかかっているなくても)「ストライク」である。

- ③ ホームプレート上に想定される5角柱の空間のどこかを球が通過すれば「ストライク」である。
6. プレイ進行中にヘルメットを意図的に脱ぐと直ちにアウトになる。(ボールインプレイ)

7. 走者以外の者が走塁援助したとき

Q: 打者がオーバーフェンス(外野境界線をノーバウンドで越えた場合)の本塁打を打った。

打者は三・本間でチームメイトと握手し、さらに背中を叩かれながらホームインした。

守備側の監督が、「チームメイトに走塁を援助された。アウトではないか」と抗議された。

[ルールケースブックより]

A: アウトではない。このようなケースは走者への援助とはみなさない。

本塁打の場合、審判員は、走者を迎えるために攻撃側がベンチを出て本塁に近づくことをさせてはならない。

8. バット、ヘルメット、捕手用ヘルメットは、JSA 検定マークが入っているものを使用する。
9. 捕手は、ボディプロテクター、スロートガード付きマスク、捕手用ヘルメット、レガース(両足)を着用する。

10. テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、投手・捕手が出塁し、走者となったとき、投手・捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。テンポラリーランナーは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者とする。